

## 2018年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

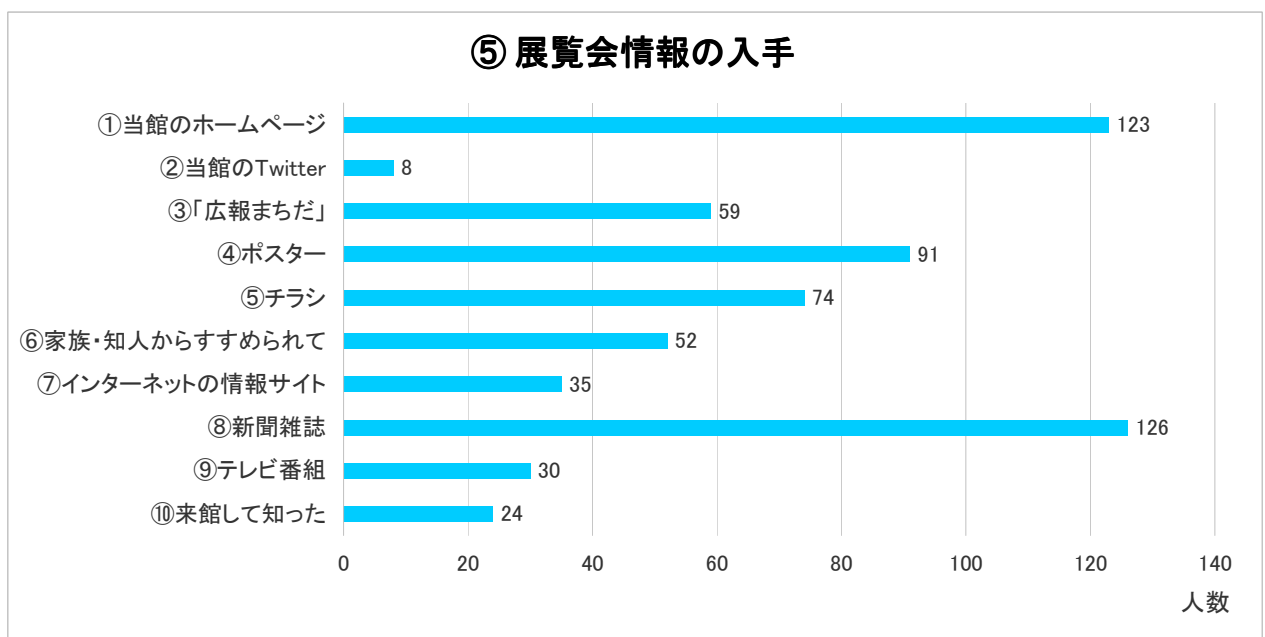
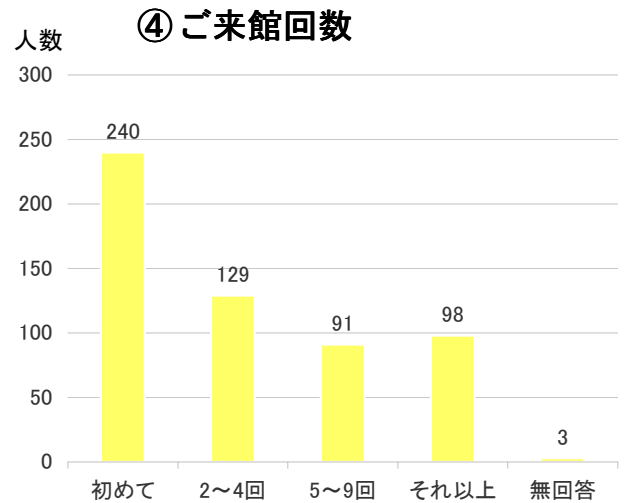
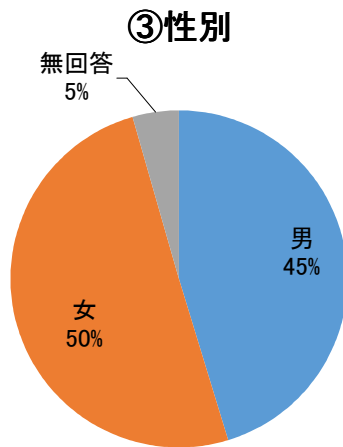
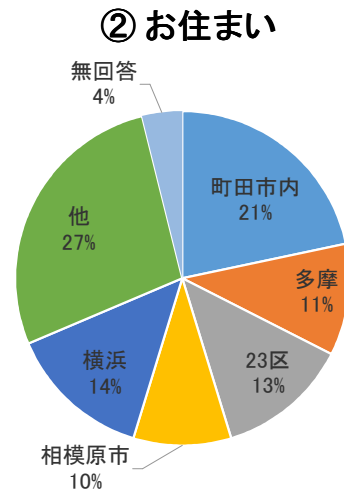
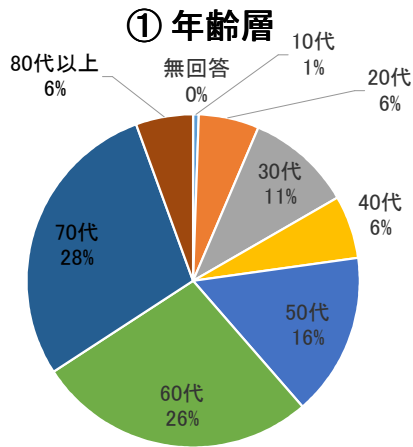
展覧会名	開館30周年記念展「浮世絵モダン 深水の美人! 巴水の風景! そして…」展		担当者名	学芸係 滝沢恭司・村瀬可奈				
会期	2018年4月21日(土)～6月17日(日)			開催日数	50日間			
協賛・後援・協力	共催:東京新聞							
巡回館	公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム〔三重県〕							
展覧会概要	浮世絵版画の継承と超克を目指して大正・昭和前期に制作・出版された「新版画」を中心とした伝統木版を「浮世絵モダン」とネーミングし、それらを「女性」「風景」「役者」「花鳥」「自由なる創作」の5つの画題に分類して紹介しかつ美術史的な位置づけを試みた。全299点で展示構成し、前期(4月21日～5月20日)、後期(5月22日～6月17日)で約70点を展示替えし、常時約230点を鑑賞できるようにした。町田市立国際版画美術館開館30周年記念として開催。							
ねらい・対象	「浮世絵モダン」が同時代美術と共鳴しつつ、如何なる画題をどのように表現したかを明らかにしながら、近代の伝統木版画への一般の親しみが広がることを目指した。川瀬巴水や吉田博、伊東深水、橋口五葉などに関心を寄せる60歳代以上と外国人の来館者をターゲットとした。その一方で、10代から30代の若い世代にも関心がもたれるように内容を工夫した。							
関連催事		開催日	タイトル	講師等	参加者数			
	対談	4月28日(土)	新版画出版のシナリオ	岩切信一郎(美術史家)、渡邊章一郎(渡邊木版美術館 舗代表取締役)	60人			
	講演会	5月3日(木・祝)	近代美人画の諸相 鎗木清方と新版画の画家	篠原聰(東海大学准教授)	89人			
	講演会	5月26日(土)	録音で聴く、新版画の時代の歌舞伎役者	小野迪孝(美術史家)	20人			
	英語によるギャラリーツアー	5月19日(土)、6月9日(土)	新版画にみる風景表現の典型／新版画の西洋人版画家	古家満葉(一橋大学大学院博士後期課程)／永谷侑子(慶応大学大学院博士後期課程、ロンドン大学SOAS修士課程)	37人			
	プロムナード・コンサート	6月2日(土)	ピアノと尺八による唱歌・童謡のひとつとき…	後藤泉(ピアノ)、渡辺淳(尺八)	341人			
	館長スペシャルトーク	5月27日(日)	館長スペシャルトーク	当館館長 村田哲朗	50人			
	学芸員によるギャラリートーク	4月29日(日)、5月13日(日)、6月10日(日)	ギャラリートーク	当館学芸員 滝沢恭司	140人			
観覧料	一般	65歳以上	大・高生					
	800円	400円	400円					
観覧者数	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、65歳以上	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	10,439人	2,722人	13,161人	7,906人	4,483人	518人	254人	-人
	目標値							13,310人
主な収入	観覧料収入	図録販売収入	受託販売収入	その他の特定財源				
	5,412千円	2,284千円	103千円	2,390千円				
事業経費	<b>【展覧会開催経費】</b> ・講師謝礼(手話通訳含む) 220千円 ・消耗品費(図録購入費) 2981千円 ・作品額装委託料 376千円 ・ディスプレイ作成等業務委託料 1468千円 ・ポスター、チラシ、観覧券、案内状作成委託料 1383千円 ・広告宣伝委託料(多言語化対応特設HP開設) 1316千円 ・著作権使用申請事務委託料 200千円 ・巡回展負担金 7000千円 合計 14944千円							
主な広報・取材等の講評	・池上先生の絵ほどき 生き残りかけ創意工夫(『東京新聞』4月24日) ・町田市立国際版画美術館 大正の新版画を大集結(『都政新報』5月25日) ・「新版画」英語ツアー 町田の美術館(『朝日新聞』多摩版 6月1日) ・「新版画」表現の歴史たどる(『日本経済新聞』6月4日) ・SNS意識 作品撮影OK 迷惑行為や著作権 課題(『読売新聞』多摩版 6月6日) ・新日曜美術館 NHK、5月13日放映							

アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)		
					企画の内容	展示作品	展示の仕方等
	598 件	4.6 %	22 %	57 %	97.7 %	97.6 %	84.1 %
	主なご意見	別紙のとおり。					
工夫と反省点、改善方法	予備調査	「新版画」出版の版元であった渡邊木版美術画舗を訪れ、保管されている大量の版画を一通り調査した。引き続き、千葉市美術館や南アルプス市立美術館、山梨県立美術館、さらに都内在住の数人の個人コレクターを訪ねて所蔵作品の調査を行った。また、東京文化財研究所、国会図書館、東京国立近代美術館図書室などで資料調査を実施した。					
	作品選択	本展は「新版画」の成立と展開の見取図を示した2005年開催の「浮世絵モダーン」展をベースに、視点を交えて、新版画に表されたイメージの内容や表現を読み解くという観点から画題別に作品を展示するという構成にした。その構成に従って、町田市立国際版画美術館所蔵品のほか、渡邊木版美術画舗、千葉市美術館や山梨県立美術館などの美術館、東京都内の個人コレクションから「新版画」の代表作を中心に珍品なども選んで出品した。近隣の美術館、コレクターから作品を借用することで輸送のコストを抑えるように工夫した。					
	図録作成	共催者である東京新聞と協力して作成し、「新版画」の専門家である岩切信一郎氏、役者絵に造詣の深い小野迪孝氏、若手の新版画研究者の古家満葉氏らの協力を得た。巻頭論文2本と出品作品を全て図版掲載したうえに、できる限り多くの作品解説を掲載することに力を入れ、資料的充実度を高めた。そのためか、当初の販売予定分(840部)を完売し、追加の受託販売なども行って計1,030部を販売することができ、当初の売り上げ目標を大幅に更新できた。					
	ディスプレイ	画題別の展示構成によって章ごとに明確に違いをつけることで、展示全体にメリハリを付け、最初から最後まで厭きず楽しめるよう工夫した。また、写真撮影可能なコーナーを7箇所設けて(各コーナー5点前後の作品を撮影可とし、それらの下にカメラの図をデザインしたパネルを設置)、作品鑑賞に加えて撮影、記録、SNSへのアップなどの楽しみを加えた。開館30周年記念の年ということ鑑み、そのことと今年度開催の展覧会を宣伝することを目的に、エントランスホールに開催展覧会のバナーを掲示した。作品解説の文字が小さすぎたことは反省点である。					
	広報	展覧会の1ヶ月半ほど前に、プレスリリースを発送した。通常どおりポスター(B2)、チラシ、割引券を各所に発送したほか、町田駅や新宿駅など10数駅にB1ポスターを掲示、さらにJR横浜線車内にB3ポスターを掲示した。また、当館HPでの「芹が谷だより(ブログ)」やツイッターで適宜多めに情報発信した。共催の東京新聞が識者やタレント、役者などによる紹介記事を数回掲載したほか、朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞などが展覧会レビュー記事を掲載してくれた。また、NHK『日曜美術館 アートシーン』で放映された。展覧会スタート前のプロモーションを戦略的に実施していく必要性を感じる。					
	イベント	「新版画」の専門家による対談や講演会を計3回実施したほか、初めての試みとして、インバウンドを含む外国人の来館をうながすために、「新版画」の研究を専門としかつ英語に堪能な大学院生2名に依頼して、英語によるギャラリーツアーを実施した。この取り組みには特に朝日新聞多摩版の記者が関心を示し、記事を掲載してくれた。エントランスホールを活用したパフォーマンスやダンスなど、エンターテインメント系のイベントが実施できると、入館者も一層増えると思われる。					
	作品輸送	国公立の4つの美術館、渡邊木版美術画舗、数名の個人コレクターより作品を借用し、国際版画美術館まで日本通運の美術品専用車(一部のコレクターからは学芸員立会いのもとに町田市の公用車を利用)で無事運搬した。本展がパラミタミュージアムで開催される本年(2018年)12月まで国際版画美術館収蔵庫で保管し、会期直前に輸送、会期終了後に返却作業が予定されている。なお当館での開催終了後、東京国立近代美術館から借用した作品は一旦返却した。					
	展示撤去	展示は4月17日(火)から19日(木)までの3日間で行った。事前に用意した展示プランにもとづきつつ現場で修正を加えながら作業を進め、無事終了した。担当学芸員を中心に、サブ担当学芸員、東京新聞事業部担当者、日本通運作業員によって、手際よく作業が進行した。出品点数が多く、照明に時間がかかったが、作品が映える展示になったと考える。撤収作業(6月19日、20日)も手際よく進み、問題なく終了した。看板や壁面、コーナータイトル、柱巻き、バナーなどディスプレイ関連の展示と撤収作業も問題なく終了した。					
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会の入場者数が、13,310人の目標に対して約150人少なかった。もう一步の数値であり健闘したとはいえ、結果的に目標値に達しなかったことは残念である(改善方法はイベント、広報欄を参照)。</li> <li>・7箇所の写真撮影可能コーナーを設けたことは、多くの来館者には好評であったが、一部の来館者からは不評であった。撮影に関する案内・説明パネルを設置したが、シャッター音がうるさいことや、気が散って作品鑑賞しづらいなどの意見があり、今後も引き続きそのあり方を検討していきたい。</li> </ul>						

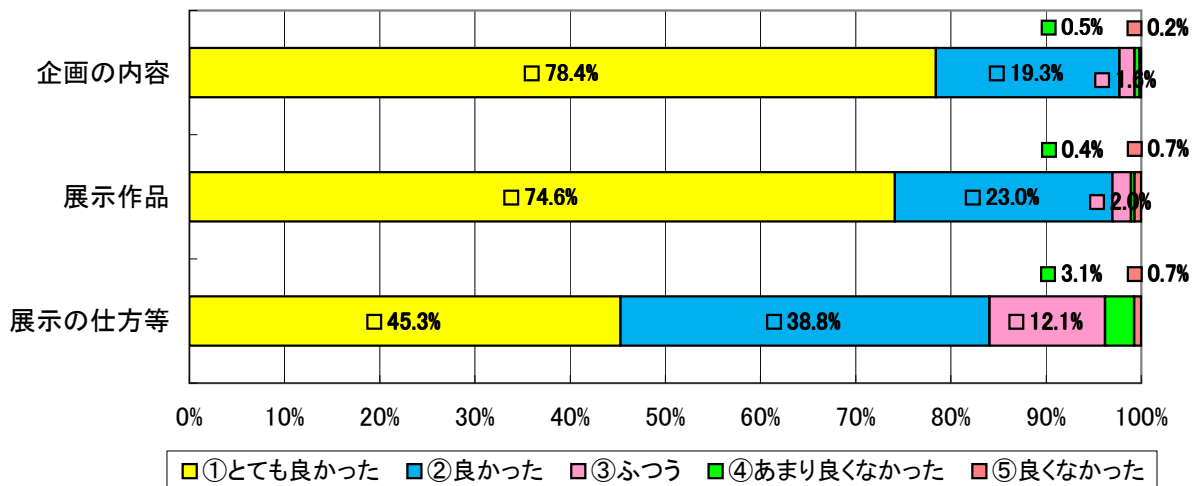
「浮世絵モダン 深水の美人！ 巴水の風景！ そして…」 展  
アンケート集計結果

開催期間：2018年4月21日（土）～6月17日（日）

回答者数： 598人（総入館者数：13,161人 アンケート回収率： 4.6%）



## ⑥ 回答者の満足度



## ⑦ 主なご意見・感想

●肯定的意見: ◆珍しい作品も多く見られて満足した。またこのような企画をお願いしたい。◆素晴らしい作品が多かったので友人に紹介したい。◆今後も学芸員の展示解説を聞く機会をつくって欲しい。◆通りいっぺんとうの内容でなく、期待よりはるかに充実していた。版画のおもしろさ、表現の工夫が感じられる良い機会だった。◆子どもと一緒にトークフリーデーに来館し、いっしょに楽しめてよかった。◆内容が豊富で全部見るのに時間がかかったが、大変満足のいく時間を過ごした。◆テーマ分けの展示で、作家の個性がよく伝わってきた。◆次回以降の展覧会にも来館したいと思った。◆いろいろな版画を見られてよかった。特にあまり見ることのない作家の作品を見られてよかった。◆以前から見たかった川瀬巴水の作品を多数鑑賞できてとてもうれしかった。◆伊東深水の若い頃の作品、吉田博、川瀬巴水の絵がよかった。◆町田の美術館でこれ程面白い企画の展覧会が見られ、本当に楽しませていただいた。◆普段美術館に行くことはあまりないが、近隣の美術館で今回のように楽しめる展覧会があればまた来たい。◆新聞の案内で巴水の版画が印象に残って来館、実際に見たらどの作品も素晴らしく版画に目覚めた感じ。◆展示の仕方はとてもよく、分りやすかった。

●否定的意見: ◆鑑賞者の話し声やシャッター音がうるさいので対策が必要。◆写真撮影可能はうれしいが、うまく取れるような展示にしてほしい。◆解説文字が小さすぎて読みづらい。◆リピーター割引があってもいいのではないか。◆来館時の道案内を充実させてほしい。案内板を設置してほしい。

本展は浮世絵版画の流れをくむ近代日本版画である「新版画」を取り上げた展覧会であり、国際版画美術館開館30周年記念として開催した。近年の川瀬巴水や吉田博などの回顧展開催などによって一般への認知度が高まり、さらに浮世絵版画への関心も高まっている状況を踏まえ、周年企画に相応しい内容になるとの判断から開催に至った。

展覧会の入場者数は、13,310人の目標に対して約150人少なかった。もう一步の数値であり健闘したとはいえ、結果的に目標値に達しなかったことは残念である。いまひとつイベント内容の工夫、広報戦略が必要であったと考える。一方、展覧会図録は完売し、追加販売なども実施できたことで当初の売り上げ目標を大幅に更新することができた。

アンケートの集計結果としては、まず展覧会への満足度が高かったことがあげられ、本展は総体的に評価されたということが出来る。ただし展示の仕方等について、作品解説文字が小さいなどの意見があり、改善の余地が残っている。来館者情報としては、来館者の年齢層が高かったことが特徴である。40歳代までの入場者が、例えば2017年度開催の「横尾忠則 HANGA JUNGLE」では70パーセントであったのに対して、本展は23パーセントとかなり低く、高齢者好みの展覧会であったことが明確にわかる。また、展覧会情報の入手について、当館ホームページと新聞雑誌によるものが多いという結果が出ている。このうち前者については「芹が谷だより(ブログ)」やツイッターで展覧会広報担当者が頻繁に情報提供したこと、後者については、共催者の東京新聞が評論家やタレント、役者、クリエイターらによる記事を掲載してくれたことや、読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞など大手新聞が展覧会の内容や取り組みに興味をもってくれ、レビュー記事を掲載してくれたことが要因であったと分析できる。

また英語によるギャラリーツアーを実施したことと、展覧会会場で数ヶ所の撮影可能コーナーを設けたことに関して、読売新聞、朝日新聞、東京新聞が美術館での作品鑑賞のあり方の積極的な取り組みとして取材・掲載してくれた。